



住友ゴム工業の DXへの取り組み

TAKING YOU BEYOND

目次 Contents



- 01** 社長メッセージ
- 02** DXビジョン・戦略
- 03** DX推進体制・役割
- 04** DX人材育成
- 05** デジタル化に向けた**IT**環境整備
- 06** セキュリティ対応
- 07** DX推進に係る指標KPI
- 08** デジタル技術利活用事例・情報発信

社長メッセージ



当社を取り巻く環境は、大規模な環境変化やモビリティ社会におけるCASE、MaaSの発展により急速に変化しております。当社の長期経営戦略実現に向けて、DXとAIの活用は不可欠な経営の根幹と位置づけています。

当社における「DX経営」とは、「事業の営みにより発生するデータを、人手を介さず経営に活用し、競争上の優位性を確立すること、そしてデジタル化されていく社外ネットワークと確実につながること」であり、事業環境の変化に迅速に適応し続ける経営です。この実現に向け、トップダウンとボトムアップの両輪でスピード感を持って推進しています。

DX・AIの活用は、既存業務の効率化を一段と加速させる重要な手段です。それによって人的資源を捻出し、成長分野へ再配分することで、イノベーションと価値創造を実現してまいります。また、2025年に買収した米国Viaduct社のAI技術と当社独自のデジタルソリューションSENSING COREを融合させることで、タイヤから取得されるデータを活用した高度な付加価値サービスへと進化させ全社で推し進めてまいります。DXとAIを経営の原動力として、持続的な成長と企業価値の向上につなげてまいります。



DXビジョン・戦略



DX経営の実現に向け、データドリブン経営、デジタル技術による業務の高度化、ソリューションサービスの提供という3つの戦略を推進します。ボトムアップとトップダウンの両輪でアジャイルに取り組むことで、デジタル技術を活用したイノベーションを実現し、Our Philosophyの具現化を目指します。

経営ビジョン（Our Philosophy）

未来をひらくイノベーションで最高の安心とヨロコビをつくる

DX経営

社内外のデータを確実につなぐことで、データとデジタル技術を利用した経営・業務の高度化と、最先端ソリューションでお客様を支援し、事業環境の変化に迅速に適応し続ける経営

データドリブン経営

データに基づく意思決定により、経営の高度化/精度向上

デジタル技術による業務の高度化

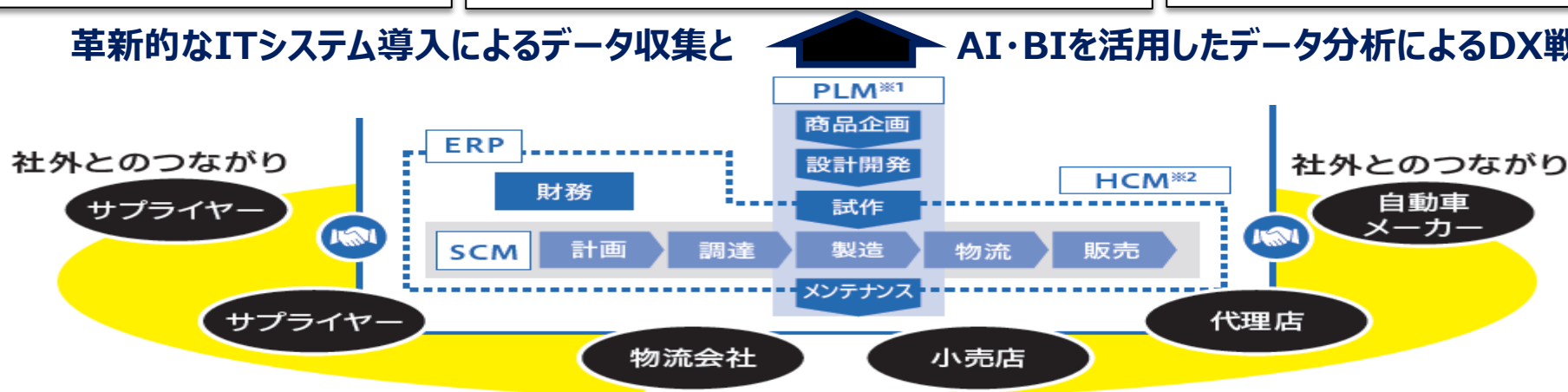
デジタル技術を活用し、業務の効率化やスキル向上を促し、従業員の満足度を高める

ソリューションサービスの提供

センシングコア(独自のデジタルソリューションサービス)の事業化によりお客様に新たな価値を提供

革新的なITシステム導入によるデータ収集と

AI・BIを活用したデータ分析によるDX戦略実現



DX推進体制・役割



DX推進は全社的に取り組んでいます。経営トップの監督のもとデジタルミッションチームとモビリティソリューションミッションチームがDXを牽引する、部門横断・サプライチェーン横断のデジタル推進しています。全体統制を図り、担当役員がこれらをサポートし経営戦略に反映しています。

経営トップ（社長）

全社戦略の実現に向けDXを全社方針として推進

担当役員

デジタル技術分野の知見をもってDX戦略を監督

デジタルミッションチーム

連携

モビリティソリューション ミッションチーム

ERP基幹システムの
導入・刷新

ERPを導入・刷新し、
迅速な経営意思決定を支援

サプライチェーン
最適化に向けた
システム構築

調達から販売まで最
適化したバリュー
チェーン全体のSCM
システムを構築

製品ライフサイクルマ
ネジメント高度化

開発から保守まで一
元化したPLMシステ
ムを導入し、品質向
上や開発迅速化を
行う

IoT技術の導入・
利用推進

国内外の生産工場
へのIoT技術導入に
よる品質向上・プロ
セス最適化

デジタル技術・
データ利活用

AI/BI導入によるデー
タ利活用による業務
高度化とRPAを活用
した業務効率向上

DX人材育成

各業務領域でデジタ
ル技術の利活用
人材を育成、社員の
レベルアップを図る

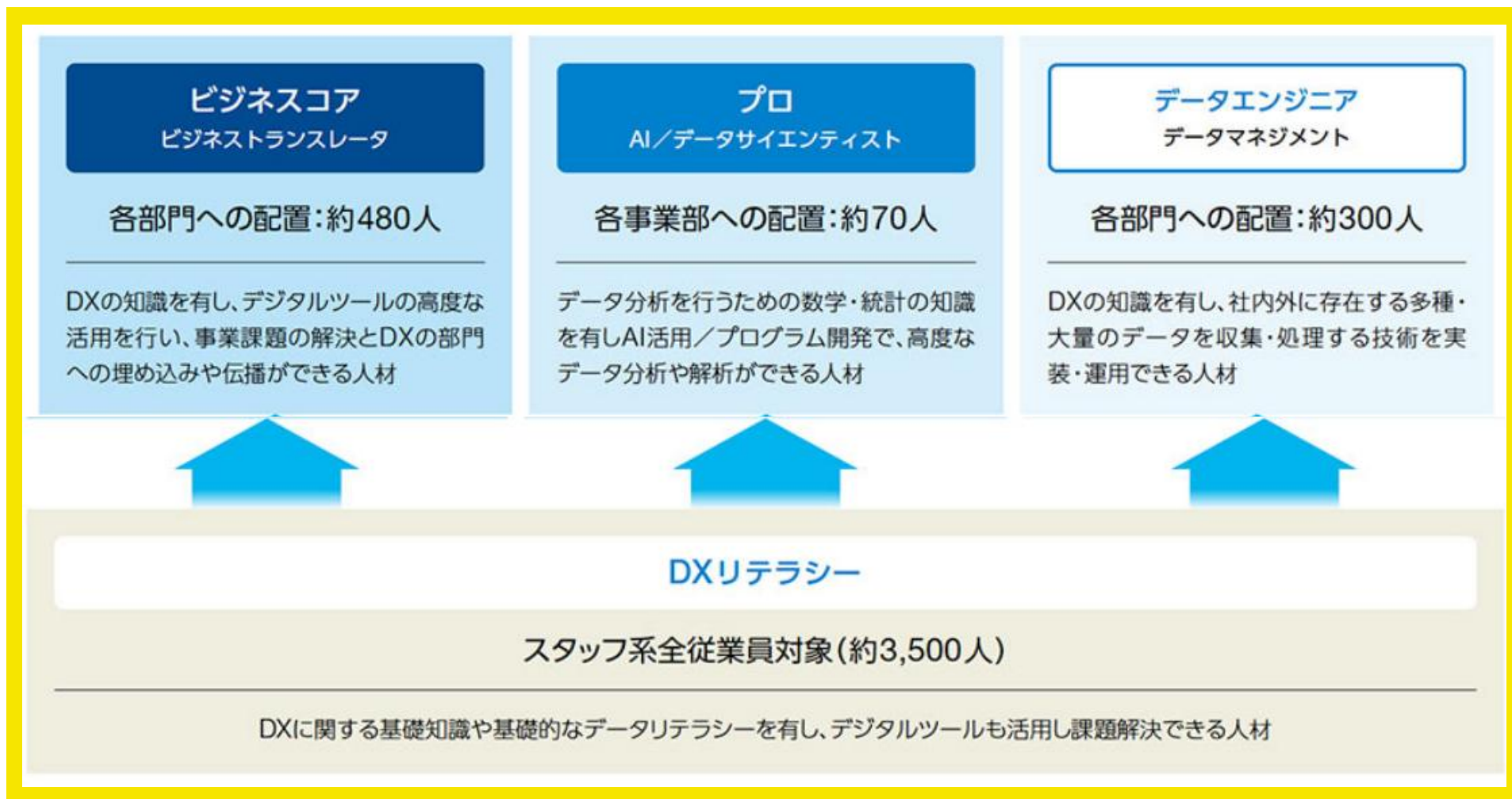
センシングコアの開発と
ビジネス化

当社独自のデジタルソリューション
-センシング
コアの開発及びビジネス展開を
推進

DX人材育成

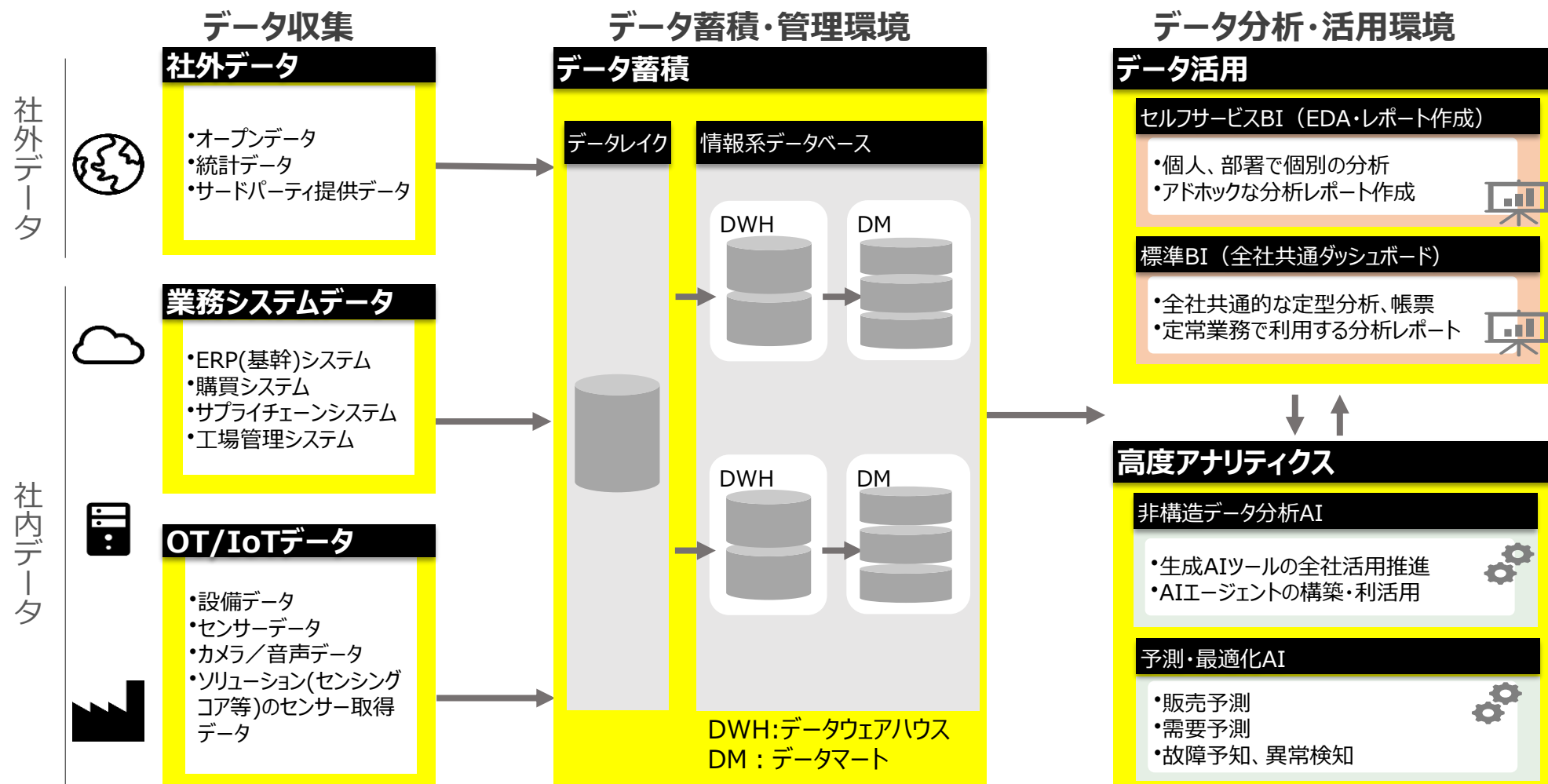


DX推進に必要な3つの力に合わせて、DXリテラシー教育をベースに、ビジネスコア（ビジネスにDXを適応させ推進）、プロ（AIを活用し高度なデータ分析を実行）、データエンジニア（必要なデータの収集・活用を効率的に実施）の3コースで構成しています。2025年にはスタッフ系全従業員(約3,500人)を対象にDXリテラシー教育を行った。



デジタル化に向けたIT 環境整備

当社はデータの収集から分析までを一貫して行っています。多種・多様な社内外のシステムから、データを収集し、蓄積・管理しています。分析にはAI等のデジタル技術を活用し、BIツールを用いて可視化しています。社内でデータ管理を一貫して行うことで、意思決定や戦略立案を効果的に支援します。





セキュリティ対応

当社ではグループ全体のサイバーセキュリティ対策として、サイバーセキュリティ戦略統括部直下に「SRIG-CSIRT」、「SRIG-FSIRT」を設けています。各拠点・グループ会社にてセキュリティ責任者を配置することによって、進化を続けるサイバー攻撃に迅速・適切に対応していきます。



SRI-CSIRT

(CSIRT:Computer Security Incident Response Team)

<役割>

サイバー攻撃から情報資産を守る

<内容>

グループ全体におけるITセキュリティの統括(方針・ルール制定など)

- ・IT情報セキュリティ管理責任者：各社の社長がこの任にあたる。情報セキュリティ管理責任者は事務局を任命する。
- ・IT情報セキュリティ管理者：事務局に任命された者が担当する。事務局を補佐し、「セキュリティマニュアル」の運用業務を担当する。

SRI-FSIRT

(FSIRT:Factory Security Incident Response Team)

<役割>

サイバー攻撃から工場を守る

<内容>

グループ全体におけるOTセキュリティの統括(方針・ルール制定など)

- ・OTセキュリティ管理責任者：各拠点におけるOTセキュリティ管理の適用・実施に責任を負う
- ・OTセキュリティ管理者：各拠点におけるOTセキュリティ管理の適用・実施の実務を担う(必要に応じてFSIRTの支援を受ける)
- ・OTセキュリティ担当者：各拠点におけるOTセキュリティ管理の適用・実施の業務実施を担う(FSIRTと連携して業務を実施する)

DX 推進に係る指標KPI



DX推進に係る進捗指標（KPI）を設定し、DXの推進状況を確認することで、ソリューションビジネスの発展やデータドリブン経営、業務の高度化を推進し、全社のDX推進を促進いたします。

KPIの考え方		KPI	
DX人材育成	DXを迅速かつ効果的に推進するために、DX人材育成を行う。 当社のDX人材育成は基礎研修をベースに、DX推進に必要な3つのスキルセットに合わせて、3つの発展研修を設けています。(p.6参照) これらの受講者数を増やし、DX人材の育成を行います。	基礎研修	DXに関する基礎知識データリテラシーを備えた人材 (DXリテラシー受講者数)
		発展研修	ビジネス課題に対しDXを活用した企画できる人材 (ビジネスコア受講者数)
			高度なデータ分析・解析ができる人材 (プロ受講者数)
			データを管理運用する技術を備えた人材 (データエンジニア受講者数)
デジタル技術の活用推進	デジタル技術の活用推進の効果を具体的に測定するために、AI、BI、RPAの適切な活用とその成果の継続的なモニタリングを行います。	BIツールのアクティブ率	
		RPAのボット数・削減された業務時間	
		生成AIツールの活用ユーザー数	
システム連携	DX経営の実践に向けて、全社のシステム連携を推進する。	各種システムの刷新・導入を計画通りに遂行する	

デジタル技術活用の事例



全社的なDX推進のため、デジタル技術の利活用に取り組み、独自のデジタル技術で新たな価値創出、データ分析・可視化、AI・シミュレーション活用により顧客・社会の課題解決に貢献する

SENSING CORE

- ・当社独自のデジタルソリューション。タイヤをセンサーとして路面・荷重等の情報を取得し、安全・安心の価値を提供。

データ分析・可視化

- ・Tableau等のBIツールを全社展開し、現場主導のデータ活用とデータドリブンな意思決定を推進。

AI・シミュレーション活用

- ・生成AIツールの導入、AIEージェントの構築によりビジネスインサイトの分析、意思決定の迅速化を支援
- ・AIやシミュレーションなどの予測技術を活用した独自の「SDIプロセス」が、タイヤ開発を高速化

社内外に向けたDX推進についての発信



DXやAI活用に関する最新情報・取り組みを促進するために「Digital Innovation Day」を設け、社長が社内に情報発信しています。また当社のデジタルソリューションであるセンシングコアについて、社長自ら製品発表を行っています。

社内交流イベントの様子 (Digital Innovation Day)



全社DXの推進や人材育成の状況並びに先進的な社内外事例の共有を行う参加型イベント。DXに関する議論と知識の共有の場として、参加者の活動内容やそこからの学び、そして前向きなチャレンジを共有し合っている。

デジタルソリューション（センシングコア）記者発表会



社長自らモビリティ社会の変革における競争が進んでいる中、自社のセンシングコア技術が交通事故ゼロや自動運転の実現に貢献すると述べ、CASEやカーボンニュートラルに向けた取り組みと新機能を発表することを説明した。

